

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表: 2023年 3月 3日

事業所名 キンダーハイム地域支援事業

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5		・入室できる人数を決めている ・広さを生かして遊びに合わせて使う場所を変えている	・コロナ感染状況等にあわせ、入室できる人数も配慮する。 ・今後も広さを生かした遊び方を行っていく。
	2	職員の配置数は適切である	5		・一人多く配置している	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	5		・部屋の入口、靴箱前はフラットになっている ・活動に合わせて、部屋の使う場所を決めており視覚支援も行っている ・必要のないものは置かないよう環境に配慮している	・活動に合わせた視覚支援を行い、子どもたちが理解し参加できるよう環境整備している。引き続きわかりやすい環境作りに努める。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	5		・フローリングのため冬は少し寒いのが、暖房器具で対応している ・常時換気し空気清浄機も使用している	・空気清浄機の使用と常時換気し、コロナ感染対策を行っている。これからも換気と室温に気をつけ、環境を整える。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	5		・職員会議を行い話し合っている	・今後も定例会議だけでなく、今後も必要に合わせ職員間で話し合える場を作っていく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5		・昨年度のご意見を参考にし、改善を図っている	・保護者同士の交流については、個々の思いや希望もあり、どのような環境作りや配慮が必要なかを把握し、その全てを網羅することは難しい部分もあるが、今年度は子どもたちの様子(分離不安の有無など)を見ながら保護者学習会を実施した。次年度も各グループの状況に合わせた内容の学習会を予定している。また、子どもたちの様子によっては、おもちゃ遊びの時間に保護者同士でお話しされている時には、遊びの時間を少しだけ伸ばし、交流していただけるようにしている。いつでもできる対応ではないが、子どもたちや保護者の方の状況を見ながら自由遊びの時間を柔軟に使うしていく。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5		・館内掲示とホームページで公表している	・今後も見ていただきやすい所に掲示する。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	3	・第三者による外部評価は行っていない	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5		・発達の流れや感染対策、実践報告内など、年に数回研修を行っている	・総括会議も含め、平均月1回程度の事業室内研修を行っている。広く職員が研修を受けることができるようオンラインでの外部研修にも参加した。今後もオンライン研修も含め、学びの機会を作っていけるよう様々な種類の研修を勧めていく。 ・研修を受けた後の職員間のやりとりなど、研修が職員の役に立つような働きかけは必要。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	5		・契約時の面談と体験時の聞き取り、普段の活動の様子などを踏まえて作成している	・アセスメント表への記入と懇談から、保護者のニーズや子どもたちの課題を分析し支援計画を作成している。今後も保護者のお話を丁寧にかがいを職員間で共有し、子どもたちや保護者のニーズ把握に努める。
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5		・発達検査を受けた家庭には結果をうかがい、資料の提出をお願いしている	・発達検査の内容や項目の意味について引き続き会議等で確認し、子どもの状況の把握に努める。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	5		・各家庭の状況と本人の様子に合わせた支援内容を設定している	・保護者からお話をうかがうとともに、必要な支援とその具体的な方法を職員が設定できるよう子ども理解を深めていくことは今後も必要である。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	5		・子どもたちの課題に合った支援計画を作成し、それをもとに遊びを設定している	・支援のねらいを職員間で共通理解し、支援計画に沿った遊びなどを提供できるよう、今後も職員への発達や障がい理解に取り組む。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	5		・会議で決めている	・子どもたちの課題に合った遊びを今後も入れていくため、研修や本からも情報も得て立案していく。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5		・設定遊びは基本的には週替わりだが、子どもたちの成長を保護者の方と確認するために数か月、間を空けて同じ遊びを入れることもある	・ルールのある遊び、感触遊び、手を使う遊び、運動遊びなど様々な遊びを子どもたちの課題に合わせて組み込み、楽しんで参加していただけるよう引き続き取り組む。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	5		・制作などの机上での個別課題とルールのある遊びや感触遊びなど集団でできる遊びを組み合わせている	・引き続き、子どもたちの発達、園生活などの状況などを把握し、職員間で情報を共有し、支援計画作成に努める。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	5		・予め日案の確認を行い、役割分担について話し合っている	・日案の確認を行うことでスムーズに遊びを進めることができている。今後も事前準備、子どもたちへの関わり方や進め方などを確認し、実施する。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	5		・終了後、子どもたちの様子や保護者の感想を共有し、次回以降の支援の仕方を話し合っている	・今後も、子どもたちの様子や保護者からうかがった話について職員間で情報共有し、関わり方について話し合っていく。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	5		・毎日日記録等を作成している	・引き続き、子どもたちの姿をわかりやすく記録し、支援の見直しを図っていく。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5		・6か月に1回はモニタリングを行い、支援の見直しを行っている	・子どもの様子に合わせて柔軟に支援計画を見直ししていく。
関係機関や保	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	5		・基本的に児童発達支援管理責任者が出席している	・サービス担当者会議の中で情報交換し、よりよい支援につなげていけるよう、引き続き会議に参画していく。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5		・区の子育て支援室などと連携し、情報共有できるよう、電話で連絡をとりあっている	・コロナ感染予防もあり、区の担当者との会議が持ちにくい状況が続いているが、電話での連絡は行ってきた。今後も関係機関との情報交換を行っていく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	1		・現在はおられません	・契約時に保護者からの聞き取りを引き丁寧に引き取りを行い、必要な支援を行えるよう準備する。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0		・現在はおられません	・契約時に保護者からの聞き取りを丁寧に引き取り、必要にあわせ連携する。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	1	・必要に応じて会議や電話でのやり取りなどを行っているが、保護者も参加されている教室の為懇談等で引き継ぎ内容を話し合い、保護者から伝えていただけるようにしている	・引き続き、懇談時に進路先に伝えることを保護者と話し合う。また、保護者の要望に合わせて進路先と直接やり取りを行う。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
護者との連携関係機関や保護者との連携	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	2	<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じて会議や電話でのやり取りなどを行っているが、保護者も参加されている教室の為懇談等で引き継ぎ内容を話し合い、保護者から伝えていただけるようにしている ・保護者学習会で、サポートブックの作り方を伝えている 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き懇談時に進路先に伝えることを保護者と話し合っていく。また就学に向けた保護者学習会を次年度も行う。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	1	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス担当者会議を中心に助言を受けたり意見交換したりしている ・直接やり取りできる事業所とはこまめにやりとりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス担当者会議だけでなく、普段の子どもたちの様子を事業所間で伝ええるよう、こちらからも電話をし、情報共有や相談がしやすい関係を作っていく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	4	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所として保育所や幼稚園に出向くことはないが、それぞれの子どもたちは保育所や幼稚園に通っているため、障がいのない子どもと活動する機会をもっている 	
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加している	5		<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援関係者連絡会に参加している ・会議によって、管理職が参加している 	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン会議なども活用し、今後も参加していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5		<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な懇談と毎回来られた時にお話を伺ったり、子どもの様子について保護者と話し合ったりしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、子どもたちの親子教室内での様子を保護者に見ていただく中で成長を確認しあい、今後の課題を話し合っていく。 ・子どもたちの見せる姿の意味を保護者に伝えられるよう、職員の発達や障がい理解を深めることも必要。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	5		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達や状況に合わせた保護者学習会を年に数回行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も、子どもたちの年齢や次年度の過ごし方を意識した保護者学習会を実施するため、担当職員が子どもたちの生活や発達への理解を深めることと研修や本の活用も必要。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5		<ul style="list-style-type: none"> ・契約時、変更時に行っている 	
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	5		<ul style="list-style-type: none"> ・懇談時に説明し、同意を得ている 	<ul style="list-style-type: none"> ・懇談時に振り返り、課題を共通理解した上で支援計画に同意していただけるよう、今後も普段からの保護者とのやりとりと懇談時の丁寧な説明を行う。 	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5		・定期と保護者の求めに応じて懇談を行ったり、参加された時にお話を伺ったりし、相談に応じている	・定期的な懇談以外にも懇談や電話での相談をお受けできることを、年度の始めや懇談時に繰り返し保護者に周知する。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5		・保護者学習会で保護者同士で話をしていたり、自由遊戯の時間にお話ししていただいたりしている	・保護者学習会を行ったり、自由遊戯の時間にお話しいただけるよう時間調整は行っているが、新しいメンバーばかりのグループだったり、子どもたちの状況によっては保護者同士が話をすることが難しい場合もある。1年間保護者同伴で参加いただいているため、学期末の感想会のような話し合える場面を作っていく工夫は必要。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5		・ご相談を受けた場合、できるだけ早く職員間で話し合い対応している	・定期懇談の際、相談がある時は随時懇談を行うことを再度保護者にお伝えする。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5		・毎月のプログラムと季刊誌(どろんこ)で伝えている	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	5		・鍵のかかる棚に入れている	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5		・必要に応じて視覚支援などを用いてわかりやすく伝えている	・利用児や保護者の状況に合わせて見直し、必要に応じて新しいものも作成する。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	5	・地域住民を招待することはないが、地域のお祭りに参加しており利用者にも案内している	・行事を行っていないが、入り口は入館していただきやすい作りになっている。そのため安全面の確保も合わせて行っていく。
41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5		・今年度、防犯、安全面の確保についての研修を警察から職員を派遣していただき実施した	・不審者が館内に入ってきた時の対応などを警察の方から直接教えていただいたが、何度でも教えてもらい考えなくても行動できるようになることは必要。複数担任で「自分だけではない」という安心感があるため、「自分の一人の時だったら」という危機意識をもって研修に参加するよう、実施前に周知する。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5		・紙芝居などを使い、どう行動するのかをわかりやすく伝えている。 ・避難訓練の際、どこに避難するのかとその住所や電話番号も合わせて保護者に周知している。	・たくさんの利用児と保護者に参加していただけるよう、今後も毎月のプログラムで予定をお伝えする。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5		・契約時に服薬や受診状況について確認している	・引き続き6か月毎の懇談時のアセスメント表をもとに変更がないか確認を行っていく。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	2	・アレルギーの確認はしているが、現在クッキングなど食の提供を行っていない ・親子教室の為、その場で保護者に確認していただける ・今年度は小麦アレルギーの子どもがいるグループでは小麦粉粘土はグループとしても使用せず、紙粘土など別の物で代用した	・引き続き契約時の懇談や6か月毎のアセスメントで確認を行う。 ・遊びの幅を狭めることがないよう、代わりにできることを考え、提供していく。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5		・ヒヤリハット事例があった場合、職員全体で共有している	・新年度の会議で、再度環境の見直しを行う。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5		・毎年研修を受けている	・毎年確認することで自身の動きの振り返りの場となっている。今後も事業所内での研修を行うとともに外部研修にも積極的に参加していく。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5		・契約時に説明し、支援計画にも記載している ・けがの処置など緊急性のあるやむを得ない場合以外、基本的に身体拘束は行わないようにしている	・保護者に向けて説明している内容を職員に再度説明し、その上で身体拘束を行わない支援について考える機会を設ける。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。